野新聞　第3種郵便物認可

内視鏡の手術機器開発

「医工連携」県が仲介

栃木精工とツカサ精密

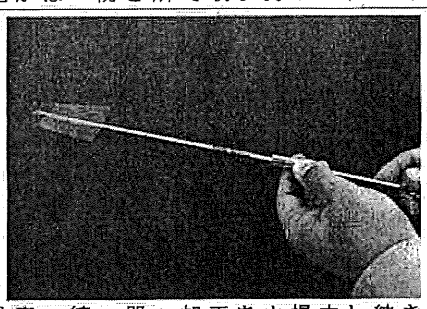
医療機器などを製造する栃木精工（栃木市平柳町2丁目、川嶋大樹社長）と精密板金加工のツカサ精密（宇都宮市芦沼町、渡辺潤司社長）は、内視鏡手術に使う医療機器を共同開発した。医療と工業分野が手を組む「医工連携」を推進する県が、両社を橋渡しした。互いの強みを生かし、性能を向上させることで、現場のニーズに応える。（小口華奈子）

臨床現場のニーズに対応

開発された「タナリー・ナビゲート」はステンレス製の棒状の器具。腹部に開けた小さな穴から、術後の合併症を防ぐ癒着防止フィルムを体内に挿入する際に使う。

先端にある4本のワイヤの間にフィルムを挟み、持ち手側にある取っ手を回すとフィルムが機器の中に収納される仕組みだ。体内でフィルムを広げて縫合箇所などを覆い、合併症を引き起こす恐れのある癒着を防ぐ。

これまで類似する製品はあったものの、使い捨てが中心だったという。繰り返し使える製品を求める医療現場の声に応えるため、県が精密板金加工に優れるツカサ精密と医療機器に精通する栃木精工をマッチングした。



患部を保護するファイルを体内に届けるタナリー・ナビゲート

新製品は分解して滅菌処理できるため、繰り返し使えてコスト削減につながる。ワイヤでフィルムを巻き取って内部に収納する方式を採用したことで、手術中のフィルムの破損も減らせる。ツカサ精密が試作品を開発し、栃木精工と共同で改良を加え、厚生労働省へ医薬品や医療機器などの届け出（薬事申請）の手続きを行った。

栃木精工の開発責任者荒井大輔氏は「術後の合併症が問題となる中、患者さまのために関係機関が同じ方向を向いて取り組んだことで製品化が実現した」と話している。

販売価格は税別5万5千円。臨床現場のニーズを収集し、他の医療分野に応用できるか検討するという。